

交流95周年祝う 台湾・新港奉天宮が参拝

妙心寺 靈雲院



11月9日、京都市右京区の靈雲院

臨済宗妙心寺派大本山妙心寺の塔頭で四本庵(よんぼん)用語解説IIの靈雲院(京都市右京区、則竹秀南住職)を7月9日、台湾・嘉義県の新港奉天宮(こうほうてんぐう)の一行が参拝し、交流が始まって95周年を祝う合同法要が営まれた。法要後には京都市内のホテルで歓迎の祝宴も開催され、日本と台湾の関係者が旧交を温めた。

新港奉天宮は女神・媽祖(まそ)を信仰する寺院で、1812年に建立された。台湾が日本領だった1928年から妙心寺派と関わりを持ち、両寺院は2018年に90周年を祝う法要を厳修し、コロナ禍中の21年にもリモート法要を営むなど交流を続けてきた。

この日の合同法要には、妙心寺派の小倉宗俊管長と則竹住職をはじめ靈雲院国際禅交流友好協会の関係者、奉天宮の何達煌理事長と黄文亮総裁らが参列。法要後には記念品を交換した。

則竹住職は、9月にも台湾へ訪問する考えを明らかにし、「コロナ禍を経て両団体の交流がますます発展できれば」と要望。台湾の蔡英文総統の祝電も披露され、「豊かな信仰心をもって、両国のますますの繁栄と世界平和を祈る。奉天宮と妙心寺の縁が今後も続

扇子・中子

株高樹扇子店

京都市下京区七条通堀川西一筋目南入
〒600-8263 電話(075)351-1860

てもらいたい」と関係のさらなる強化を求めた。